

ふるさと（霞ヶ浦を中心とした周辺地域）の歴史・文化の再発見と創造を考える

ふるさと風

第201号（2023年4月）春号

（当会報は2023年より4・7・10・1月の年4回発行となりました。）

常世の風に吹かれて呟いて（8） 白井啓治

（故白井啓治氏の過去の記事から

一部を抜粋して連載しています。）

『お犬様 湯船につかり温泉気分』

（2013年1月25日）

今日はお犬様にシャンプーをしてあげる。

風呂場にベビーバスを持ち込んで、湯を張り「どうぞ」というとザブンと飛び込むように入ると、腹這ってぬくぬくと満悦顔。保護してきた翌日に、まずはシャンプーをしてあげた時とは大違いである。その時は何をされるのかとビクビク怯えていたのであるが、今は温泉湯治の気分である。暖かい湯船につかっていると、具合の悪い左後ろ足の関節が癒されるのか、放っておくと何時までも湯船に寝そべっている。暮れに高級シャンプーとリンスを買ってきたのでそれで綺麗に洗ってやる。リンスも高級な香りがする。

最近はずっとの濡れ毛拭き用の、吸水性の高いタオルが売っており、それで拭くとドライヤーの時間が三分の一度に短縮される。

シャンプーの終わったお犬様、縁側の陽だまりに長々と伸びて寝てしまった。長々と伸びているお

犬様を、お猫様がやって来てクンクンと匂いを嗅いでいる。「耳ちゃんもシャンプーしようか」と声をかけたら、「間に合ってる！」とハンモックに逃げ去ってしまった。

今お犬様が、部屋の中をうろうろ歩いているが、実に良い匂いがする。値段だけのことはあるなど感心している。



（絵： 兼平智恵子）

『お猫お犬様抱いて微睡みの読書』

（2013年4月12日）

今日は午後の一時間ほど出かけただけで、一日家にゴロゴロ。昨日も今日も気温が上がり、明け放しておくと冷たい風が吹き抜けてくる。

本当は節電しなければならないのだが、家の中を風が吹き抜けぬんだ部屋の空気を入れ替えたいと、窓は開け放したまま。それで炬燵を入れて三人で足を突っ込み怠惰な格好で寝転んで微睡みを愉しむ。

読むつもりで昨日買ってきた本を枕もとに置いてはみるのだが、開く気は毛頭なし。貧乏性の所

ふるさと風の会会員募集中！

当会では、「ふるさと（霞ヶ浦を中心とした周辺地域）の歴史・文化の再発見と創造を考える」仲間達を募集しております。自分達の住む国の暮らしと文化について真面目に考え、声高くふるさとを語り、考える方々の入会をお待ちしております。

会の集まりは、1・4・7・10月初めに会報作りを兼ねた懇親会と各月末に雑談：勉強会を行っております。

会費は月額1,500円。（会報印刷等の諸経費）

※入会に関するお問い合わせは下記会員まで。

木下明男 090-4715-5527 兼平智恵子 0299-26-7178

伊東弓子 0299-26-1659 木村 進 080-3381-0297

編集事務局 〒315-0014 石岡市国府 4-3-32（木村）

HP <http://www.furusato-kaze.com/>

為で、こうして怠惰を愉しもうとすると直ぐに、怠けていて大丈夫か、と焦りのような気分に襲われてしまう。隠居爺さんの歳なんだから気分をがつかせるな、と言いつつ聞かせるのであるが、何かやるべきことがあったのではないかと、ついつい探してしまう。一寸声を荒げて「今週は何もしないのです！」と言ってみるのだが、あまり効果が無い。気分は焦燥感一杯であるが、それでも肉体は怠惰が良いよと動いてくれない。

この貧乏性な爺さん、もしお猫様、お犬様が居なかったらこうして怠惰な微睡を貪るなんてことできないのだろうか…。

ふたつのローカル線

兼平智恵子

今年も「湊線・絵手紙応援隊」の代表 山口浩子さんより第十一回目の「湊線 応援絵手紙募集」のご案内を頂いた。



ひたちなか市の勝田駅へ阿字ヶ浦間十四・三キロを大正二年に開業した湊線(湊鉄道として発足)は昭和四十年代には首都圏から多くの海水浴客を乗せた列車が阿字ヶ浦駅まで直接乗り入れるなど、年間利用者二〇〇万人を超えるほどの盛況でしたが、昭和五十年代からレジャーの多様化やマイカーの普及などにより利用者は減少を続け、民間企業での存続が難しい状況となりました。

高齢化の進展を見据え、地域の活力を維持する為にも鉄道の維持は必要との考えのもと、官・民・地域一体の取り組みにより、湊線は平成二十年四月から市も出資する第三セクター方式の「ひたちなか海浜鉄道」として新たなスタートを切りまし

た。

海浜鉄道発足三年後に発生した、東日本大震災の長期運休等による落ち込みを除けば、湊線は地元との協力と企業努力と鉄道愛好者、他の業者の方々の応援と多くの皆さんのご利用で、平成二十九年年度には、輸送人員一〇〇万を達成、令和三年には終点の阿字ヶ浦駅から三・一キロの国営ひたち海浜公園までの延伸が許可されました。

計画は新型コロナウイルス禍や物価高騰の影響で遅れているそうですが運転手候補二人を採用し、延伸に備え、おらが鉄道と支えてくれる地元の方々の為にも(路線を)維持し、地域の活性化につなげたい」と社員の皆さんの意気込みが伝わってきました。

絵手紙応援隊の代表 山口さんは「絵手紙を通して湊線や地元の魅力を知ってほしい」と全国の絵手紙愛好家に呼びかけ、作品を募り、列車内や駅の待合室等に展示されたり、町おこしのイベントに利用されています。この十年で述べ一七二五人の方々から二四六〇枚もの作品が寄せられたそうです。

当ふるさと風の会の分科化「風のことは絵同好会」としても、おおいに賛同し、第一回から参加。十一回目の応援絵手紙を四月十日締め切りを前にして会員一同張り切っています。

湊線のみどころ

駅名標の文字に駅周辺の特産物や名所を盛り込んだデザインが沿線地域の活性化に貢献していると認められ、平成二十七年にグッドデザイン賞(日本デザイン振興会主催)に選ばれました。

ひと目見ただけでは駅名かどうかわかりにくい。これがかえって利用者の興味を引き、駅名を印象

づける効果を生んでいる。

例

日工前 金上
につこうまえ かなあげ
中根 なかね



日立工機に 自衛隊にちな 虎塚古墳と
ちなみ電動 み戦闘機、戦 出土した
工具 車、潜望鏡 刀剣

というように素敵な駅名標になっています。

また駅舎は大正二年に湊鉄道として開業以来の木造で、事務室や駅のホームの柱などに当時の面影が残っています。

その他の駅からは徒歩で十〜二十分位の所に天満宮、反射炉、アクアワールド大洗、平磯海水浴場、阿字ヶ浦海水浴場等々。那珂湊おさかな市場ではお魚たっぷり、井からはみ出してのちらし寿司、食欲をそそります。

最終阿字ヶ浦駅から徒歩二十五分位でひたち海浜公園へ、しかしこの四月中旬から五月上旬までチューリップ、ネモフィラなどが楽しめます。

四月八、九日と四月十五日からは期間中、阿字ヶ浦駅から海浜公園ゆきの無料バスが出ているそうです。

是非是非、「湊線に乗って(フリー切符有)」海浜公園へお勧めします。

次回、風の会会報七月号には、ふたつ目のローカル線、石岡から銚田迄の懐かしい鹿島参宮鉄道をお送りします。

参考資料 二〇一七年市報ひたちなか

○継続こそ夢達成への道

智恵子

我が人生の回想13

木下明男

ギター文化館誕生まで・・・①

ギター文化館が生まれて30年。私が関わったのは25年間だが、ギター館が生まれるキッカケと生れた動機、そして誕生までの推移、開設後の動きや運営と止めるまでを記憶に従って記してみる。

1982年、3年ぶりに東京労音三役（副委員長）へ復帰。各地域による活動を重視し、地域労音化への方向を討論。埼玉の婦人会館にて泊まり込みの運営委員会が開催される。新しい企画を考えるための講演会（浜田滋郎先生）で初めて「マヌエル・カーノ」を知る。翌年全国企画として、フラメンコギタリスト「マヌエル・カーノ」を招聘。事前の取り組みとして、全国から26名の代表団をスペインに送り、アルハンブラ宮殿にて「マヌエル・カーノ」と交流（宮殿にてカーノのコンサート）が実現！そして、全国数十ヶ所にてコンサートを開催、その時に通訳兼共演者として、吉川二郎氏が全国を随行した。所謂、此処からがギター文化館建設への出発となった。

東京労音では会員数低迷を克服する対策として、体制を一新して（この年委員長に就任）中央事務

局中心の運動から地域主体の運動へと変化させていく方針を決めた。事務局員も地域労音を目指し、地域独算制を見据えてブロック（東・西・南・北・都心）へ派遣。大久保の労音会館も築後十数年経ち修理に費用が嵩むようになってきた。パブルで土地が高騰している今、本部を売却し運動拠点を地域に移行する案が真剣に討論され、1987年売却が正式に決定された。労音の内部で議論を繰り返し、外部の友好諸団体への説明にも苦労した。（労音会館は民主的な拠点になっていた）新たな拠点として、本部を新大久保、城北の拠点に十条、都心部のセンターにお茶の水、東部センターを北千住、南部センターを新蒲田、三多摩地域に府中センター、東葛センターを松戸に置くことを決定。

同時に売却益を守るため公的財団（財団全国労音会館）を確立しようと国や地域（都県）に働きかけたが、労音の名前で法人格が取れないことが分かる。次策として実質的に支配を持てる形で財団建設を模索。此の頃ギター界では、諸勢力が競い合い統一を模索していた様だった。浜田氏からギター収集家のH氏やギタリストのM氏を紹介して貰い、マヌエル・カーノ記念音楽事業団（後に国際ギター文化交流協会＝ICG）を設立した。そんな時スペインにて、マヌエル・カーノ氏が急逝してしまう。労音内部からの強い反対があったりしたが、カーノ氏が収集していた世界的なギター名器13本（A・トーレス等）を購入する事にし、収めるための会館建設を決める。

何処に建てるかは、都内数ヶ所、近県等を現地調査したが良い場所が見当たらず難航していた。其処で、東京からも近い自然豊かな八郷町を紹介する。農村地帯で小高い丘の上に位置し、目の前に

山を頂く（イメージとしてアルハンブラを宮殿彷彿）場所に案内。現地調査に来たスタッフは、皆一様に称賛する場所だった。早速ギタリストのM氏を事務局にし、諸々の調査に当たる。場所は実家（嫁さん）の畑で、両親からは快諾を得ている。行政からの協力要請、町会議員からの協力、地元からの協力等々問題は山積みしていた。特に地元からの反対（閉鎖的地域で余所者を嫌う）が強く、H氏が地元を駆け回り、隣地に接しない方法を考え（隣地の印鑑を貰わないと申請できない）許可を得られた。建築に当たっては、公平な競争入札を公募しコンペを行った。大手も含めて5社が参加したが、地元のゼネコン（昭和建設）に決定した。設計は大阪のN設計事務所に依頼、そして建設が始まったのは1990年。

地域に眠る埋もれた歴史（89）

木村 進

【民俗芸能と祭り】（3）

マダラ鬼神祭（雨引観音）

もう数年前ですが、4月の第二日曜日に桜川市の雨引観音で「マダラ鬼神祭」に行ってきました。たくさん子供連れも、生まれてすぐの赤ちゃんのお宮参りと思われる人たちもたくさん来ていました。そして境内の桜などを楽しんでから入口の石段脇に陣取って祭りの始まるのを待ちました。11時をすぎた頃花火の合図で、鬼の面をかぶったマダラ神が白馬に乗って一気にこの石段をかけるぼります。

この鬼の面は前があまり良く見えません。馬の足を確認できないのですが、馬がもう慣れたように登っていきます。桜の花びらが降り注ぐ中を仁王門に向かいます。この仁王門をくぐると更に急な石の階段があります。



数十段の階段ですが、馬はこの途中で止まると危険なので下から一気に駆け上ります。マダラ神の後には寺の僧が上ります。ホラ貝も難しいのでしようが、いい音を響かせていました。その後ろから5匹の鬼が松明をかざしてやってきました。



その後ろから稚児行列が続きます。この稚児たちは参加募集に応募した人たちです。



稚児たちの後ろを赤い傘をさした僧侶が登ります。その後ろから駕籠をかついで登っていきます。最後に袴を着た檀家や関係者が登って行きました。

この楼門（仁王門）は綺麗ですね。仁王門からその先に見えるピンクのしだれ桜がまぶしく輝いていました。このマダラ鬼神祭の由来などは後から説明することとして、祭りとしてどのようなことをやっているかを見てみましょう。

入口の薬医門から続く石段を鬼たちは登り、仁王門をくぐって急な石段をかけのぼって本殿に入ります。祭りは多宝塔の前の境内に竹で組んだ竹矢来（たけやらい）で祭りが行なわれます。

行列見物の後から行くとすでに人の山。

開始の案内の後に祝詞が読み上げられ、僧侶が日本刀をかがけて修拔（しゅうばつ）お祓いが行なわれました。そのちに由緒などを含めた祝詞が読み上げられたようですがよく聞きとれません。

正面の多宝塔の回廊にはこの日稚児行列に参加した子供たちと太鼓をたたく子供たちが並んでいます。その後、たいまつを手を持ったマダラ鬼神と白装束の6人の鬼神（白、赤、緑・・・）が鬼踊りを披露します。

その中を僧侶が真中に積まれた焚き木に火をつけます。火が勢いよく燃えてくると、鬼たちが手にした松明に点火して威勢の良い踊りを披露します。一通り鬼踊りが終わると鬼たちが引き上げ、松明が消され、そのちに焚火の消火が行なわれます。この祭りでは、この後鬼たちが背にしていた49本の破魔矢を天に向けて放ち、これを観客が取りあります。そして餅がまかれます。



この破魔矢や餅を手に入れると御利益があるそうです。地元ではこの祭りを日本で二つしかない鬼の祭りだと言っていました。

もう一つは京都太秦にある広隆寺（半跏思惟像の弥勒菩薩が有名）で行なわれる祭りです。

まず、この祭りも京都太秦とも関係があると思いますが、まずは雨引山の祭りの起源とされる話をしましょう。

「時は室町時代、文明 3 年（1471）に上杉氏憲（禅秀）が鎌倉方（足利勢）に対しておこした反乱に起因する。上杉方の武将長尾景信により足利方の古河城が奪われる。千葉まで逃れた足利勢が千葉氏などの仲間をひきつれて古河城を奪還、城を追われた長尾勢はこの雨引山に逃げ込んだ。

そして雨引山を囲んだ足利勢が麓から火を放ち、この樂法寺（雨引観音）は炎上してしまう。

本尊の薬師如来は自ら古木の陰に隠れて難を逃れたが、寺の堂宇は焼失してしまった。

しかし、その後どこからともなく、夜毎覆面をした職人が現れた。

またそれを指揮した白馬に乗った鬼面をかぶった神がいた。そして、寺の本堂はわずか 7 日で再興され、この指揮をとっていたのがマダラ神であったという話が広まった。」この伝説が元になりこの祭りが始まったと伝えられます。

このマダラ神＝摩多羅神というのはとても興味深いのです。調べだすと奥がどんどん深くなる。

前からマダラ神（摩多羅神）が何故ここでは鬼の姿になったのかを考えていた。しかしよくわからずに時間ばかりが過ぎていく。雨引観音にも時々行っているが春の桜がこのように美しい時

に来たのは初めてだ。紫陽花も有名だし、秋の黄葉時期も美しい。

坂東 33 観音の 24 番札所だ。25 番は筑波山大御堂、26 番が土浦市小町の里に近い清瀧寺で、27 番はずっと離れて銚子の飯沼観音だ。どこも美しい寺ばかりだ。100 観音巡り（西国 33、坂東 33、秩父 34）などをされる方の気持ちもわかる気がする。この石段周りは紫陽花の花が咲くとまた美しくなる。楼門（仁王門）の朱色と桜の花が同色系であつても見事にマッチしている。

【マダラ神考】

私がマダラ神（摩多羅神）のことを知ったのは、十年ほど前に島根県安来の清水寺常行堂に秘仏として納められていた摩多羅神座像が公開された時だった。そしてこの少し薄笑いを浮かべたような不思議な像は秘仏としてどこも公開していないと聞いた。摩多羅神について Wikipedia から少し転載させていただこう。

「摩多羅神（またらじん）は、天台宗、特に玄旨帰命壇における本尊で、阿弥陀経および念仏の守護神ともされる。常行三昧堂（常行堂）の「後戸の神」として知られる……

天台宗の円仁が中国（唐）で五台山の引声念仏を相伝し、帰国する際に船中で虚空から摩多羅神の声が聞こえて感得、比叡山に常行堂を建立して勧請し、常行三昧を始修して阿弥陀信仰を始めた」

と書かれている。後戸の神というのは本尊の裏でこっそりとそれを支えているような神様で、これは隠されて見えないようになっていくという。

闇の摩多羅神

変幻する異神の謎を追う



川村湊

本「闇の摩多羅神」の表紙に不思議な笑みを浮かべた摩多羅神と 2 人の童子が踊る様子の絵がある。これは日光輪王寺常行堂摩多羅神像の絵である。また、この 2 童子は丁禮多（ちようれいた）・爾子多（にした）の言う名の二童子といわれ、貪・瞋・癡の三毒煩惱の象徴とされる。

そしてもっとも注目すべきは、この摩多羅神は、田楽や猿（申）楽になり能の発祥の起源になったといわれていることにある。世阿弥の「風姿花伝」に能の歴史について第四のところに、

「一、日本国においては、欽明天皇御宇に、大和国泊瀬の河に、洪水のをりふし、河上より、一の壺流れくだる。三輪の杉の鳥居のほとりにて、雲各この壺をとる。なかにみどりごあり。貌柔和にして玉のごとし。これ降り人なるがゆゑに、内裏に奏聞す。その夜、御門の御夢に、みどりごのいふ、われはこれ、大国秦始皇の再誕なり。日域に

機縁ありて、いま現在すといふ。御門奇特におぼしめし、殿上にめさる。成人にしたがひて、才知人に超え、年十五にて、大臣の位にのぼり、秦の姓をくださる。「秦」といふ文字、「はた」なるがゆゑに、秦河勝これなり。上宮太子、天下すこし障りありし時、神代・仏在所の吉例にまかせて、六十六番のものまねを、かの河勝におほせて、同じく六十六番の面を御作にて、すなはち河勝に与へたまふ。橘の内裏の柴宸殿にてこれを勤す。

天治まり国しづかなり。上宮太子・末代のため、神樂なりしを神といふ文字の偏を除けて、旁を残したまふ。これ非暦の申なるがゆゑに、申樂と名附く。すなはち、樂しみを申すによりてなり。または、神樂を分くればなり。・・・」と書かれている。さて、桜川市雨引観音のマダラ鬼神祭に行つてみて、現地の人の話では、日本で2か所だけの鬼祭りだと聞いた。しかし、国東半島にも鬼の祭りはあるというので、マダラ鬼は2か所だけだとしても鬼に関する祭りとしては日本で2か所以上あるに違いない。もう一か所のマダラ鬼祭は京都太秦（うずまさ）にある広隆寺だ。広隆寺は秦河勝が聖徳太子から賜つた半跏思惟像の弥勒菩薩を本尊として建立した寺だと伝わっている。

この半跏思惟像は言わずとも良く知れた素晴らしい国宝仏像でもっとも古いものの一つとされている。この広隆寺で10月12日に不定期で行なわれている「牛祭り」がこの摩多羅神のまつりで、正式には広隆寺の境内社であつた大酒神社の祭り

として行なわれてきた。実際の祭りは夜行なわれておりあまり多くの写真もない。



（出典：日文研データベース）

しかし牛祭りの名前のごとく摩多羅神は馬ではなく牛に乗って表れる。祭りの起源も平安時代に遡るようなので牛が移動手段に使われていた時代である。そして自らは摩多羅神の面（紙）をかぶり、鬼を従えている。この摩多羅神は変わった祭文（国家安穩・五穀豊穰・悪病退散）を独特の調子で述べ、参拝者はそれに向かって野次を飛ばす。読み終わると摩多羅神は四天王とともに薬師堂内に逃げ込むが、群集が追いかけてその面を取り上げるといふ。面を取りあげることゝ厄祓いがなされると解釈されたという。（現在も行なわれているかは不明）

1790年に『都名所図会』にこの牛祭りを描いた

絵「太秦牛祭図絵」がある。最近牛の調達が困難になり祭りもあまり行われていないようだ。さて、この広隆寺は京都に都ができる前からあるといわれる古寺で、秦河勝が創建したという。この秦氏は渡来人集団といわれ、朝鮮半島を経由してインド近くから日本にやってきた。また秦の始皇帝の子孫であるとして秦（しん＝はた）と名乗った。当時の中国などとも往来して数々の技術なども日本にもたらした。

特に機織り技術は特筆したもので、各地に「秦」という字のついた地名がたくさん残された。

広隆寺のある太秦（うずまさ）は特にこの河勝が住んだと伝わっている。神奈川県秦野市なども昔には秦氏が住んだとも伝えられている。

秦野市は今では都会だが、かなり山側にあり北側には「ヤビツ峠」などと変わった地名もある。秦氏がこのような表舞台の地ではなく、少し引込んだ土地に住むようになった経緯はよくわからない。茨城でも常陸太田市の長幡部神社（ながはたべじんじや）はきつとこの秦氏に関係があるように感じた。さて、私も茨城でも他に常行三昧堂（じょうぎようざんまいどう）を何ヶ所か見たが、後戸の神である摩多羅神は見たことはない。一つは行方市西蓮寺の常行堂で、ここでは毎年9月に常行三昧会（じょうぎようざんまいえ）が行なわれる。またもう一つは、小美玉市の円妙寺にある常行堂です。

御留川だより

伊東弓子

元旦 旧十二月十日

“元旦は冥土の旅の一里塚 目出度もあり
めでたくもなし”

私にとつてこの言葉、今迄に胸に強く感
じた年の始めだった。後、何年生きられるの
か、元気でいられるのかと。

白井先生は、二十四節季をととても大切に考えて
おられた事を思い出す。口数多く語られた記憶は
ないが、庭に草々が、花が、猫や犬の動きと共に、
虫のお出まし、窓にへばりついた虫との語らいの
中に知らせてくれた季節への思いだった。私もこ
の一年、二十四節季を意識して大自然を見つめ、
その一部である人間の姿を綴ってみよう。

二十四節季 二十四節季とは実際の季節の動きと
暦のずれを補うものです。田植えや
種まきなどの農作業を行うための
基準ともなっていて、一年を二十四
等分したものです。

小寒 一月六日(旧十二月十五日)

「寒気がまだ最大の段階までいかない」と
いう意味。とはいえ、冬の真つただ中です。

6〜9日 芹乃栄(せりすなわちさかう)

〓 空気が冷え冷えとして、セリが青々と
生える時期。

10〜14日 水泉動(しみずあたたかふくむ)

〓 地中で凍った泉が融けて動き始める頃、
15〜19日 雉始雛(きじはじめてなく)

〓 キジの雄が雌を求めて鳴き始める

一月二日 初夢の話しをひ孫に聞かせたりした。

一月七日 七草粥 一人で啜る。

一月十一日 鏡開きの餅も一人で叩く

一月十五日は小正月 小豆粥も一人で。

一月十六日のやぶ入り 寺に行つて地域の女達

と観音経を唱え、心洗われる思い
で住職の嘶を聞く。餅搗き機はこ
われて久しい。ならし餅は公民館
で見ただけ。

霞ヶ浦堤ぞいは、菜の花の小さな芽が出
震えているように見える。漁師たちは、こ
んな日も舟を出して行つたことだろう。と
葦の揺れの影に偲んでみた。元気なのは水
鳥たち。土手や畔の草もみじの色がいい。

大寒 一月二十日(旧十二月廿九日)

一年の中でも最も寒さが厳しい時期で
す。

20〜24日 款冬華(ふきのはなさく)

〓 フキのとうが顔を出す頃。寒さはます
ます厳しさを増す。

25〜29日 水沢腹堅(さわあみずこおりつめ
る) 〓 沢に氷が厚く張り詰める時期

30〜2月3日 鶏始乳(にわとり始めて
とやにつく) 〓 鶏が産卵のために小屋に
入るという意味。

二月廿日 二十日正月だが、旧正月と重なった。

御留川の仲間と餅や御節料理を持
ち寄つて旧正月の祝いを古民家で
したかったが、忙しさのせいか寒さ
のせいか時機を外してしまった。

睦月(むつき) 陰暦一月の異名。稲の実を水に浸
す実月ともいう。

新春を迎えると同時に桜の名所の便りが賑わい
出した。テレビ、出版物など、そんなに急がない
でほしくない。今は梅の便りを待ちたい。いづみ
(犬) がやたらに土の臭いを嗅ぐ。穿くり出す。

土竜でもいるのか。まだ少ないが田おこしが始ま
った。堅まっていた土が和ぎ春を感じる情景の一
つ、夕焼けの堤に男の人の影が浮かび上る。「今日
は釣れましたか」「全くだめ、でもこの夕焼けに包
まれて幸せです。」との返事が返ってきた。立春も
まじか、鳥の声だろうか、何だろう。カッカッ、
チツチツ、ガ、ガ、ツ、ツ、つながらないままの
声か音か。ここにきて霜柱が目につくようになって
た。タロンでコーヒーを飲みながら外を眺めてい
た。高浜ハイウェイの先に、山崎の森が見える。
庭木に帽子でもかけてあるかのような。それにし
ても森の木が疎らになったように見える。以前は
鬱蒼としていた筈だ。南から入ってきた舟、漁を
する人の目印だったと聞いたが、何か淋しい姿だ。

一月廿九日は旧一月八日大井戸鬼子母神のご縁
日、暮れにいただいた座布団で温かい。
陽あたりもいいので気持がよい。あつ
たかいお茶に舌鼓しながら、お喋りに
花が咲く。乾いていた日が続いている
せいか霜柱も立たない。鳥の声だろう
か、ツンツン、チョンチョンと音が続
くようになった。

二月三日は節分、昼は多勢いの人と寺で追儼祭
に参加。夜は雷電山の社の森で大声で豆
を播く。舅の故郷、山形天童での“鬼は
外、福は内、天打ち、地打ち、四方打ち、
鬼の目ん玉ぶつつぶせ”結婚して五十何
年が続けてきた。このかけ声！

立春 二月四日(旧一月十四日)

旧暦では四日が春の始まりです。この日から立春。前日までが暦の冬となります。落葉果樹の剪定、整枝を始めた時期

4〜8日 東風解凍(はるかぜこおりをとく) 東から吹く暖かい風が氷を解かし始める時期で春を感じさせる。

9〜13日 黄蛩睨皖(こうおうけんかんす) まだ寒さは厳しい時期ですが、里ではうぐいすが鳴き始める。

14〜18日 魚上氷(いとおおりをいする) 隠れていた魚が春の兆しを感じて、氷の間から出てくる時期。

北陸、東北は大雪、従兄弟の訃報が届く。地方の行事も少なくなっていく。今の内に綴っていないと絶えてしまうと焦るばかり。

二月八日 針供養 母が和裁を教えていたお姉さん達が着物を着て集まった。豆腐に折れた針を刺して供養し、お裁縫の上達を願っていた遠い昔。

はこべの緑がぐうーと伸びた。とても目に付く。釣りに来た人と会った。とても話しやすい人で、ひら鮒が釣りたいと言っていた。

“梅一輪 一輪づつのあたたかさ”

“ひとさめ ひとさめごとのあたたかさ”

仏の座の花が縮むように咲いている。たんぽぽが、あっちこっちに一つ、こっちに一つ、咲いている。何となくぼかばかしてきた。犬の散歩の後半は汗ばむ程になるので、チャツキを脱ぐのが常となった。横にかかえていたが、落としてしまい何日か経って気がついた・・・が思い出せず困った。それも姑の手編みのチョッキ。今迄大切にしてきた

のに申し訳ない気持だから、それにもかかわらず「古い上衣よ、さようなら・・・」なんて大声で歌っていた。二月末中学校の下の土手の近くに落ちているのを見つけた。水滴が凍ってとても重くなっていたがよかった。本当によかったと繰り返した。

二月十五日は涅槃会、子供達と沙羅双樹の木や花を作ったり涅槃団子を食べたりした日、今、人の死をお粗末に扱ったりしているが、何か考えたい。

雨水 二月十九日(旧一月廿九日) 降る雪が雨に変わり、積もった雪も溶け始める。古くから農作業の準備を始める目安の時期として知られている。

19〜23日 土脉潤起(つちのしよううるおいおこる) 土脉(土脈)どみやくとは地面のこと、雨が降って土の中が湿り気を帯び始める時期。

24〜28日 霞始靄(かすみはじめてたなびく) 春めいてきて、霞がたなびき始める時期、湿潤な気候の日本ならではの景色。

3月1日〜5日 草木萌動(そうもくねばえいずる) 萌え動くとは草木芽吹く様子を言う。まさに草木が芽を吹き始める頃

如月(きさらぎ) 陰暦二月の異名。この寒さに着た上に更に着る衣更着ともいう。時更に来る気更来ともいう。仲春。

田の畔を歩いて行くと、鳥と青さが話しをしていた。おーい、俺んちの近くの茸の村は、全滅！誰もいなくなつたよ“そうか、残念だなあ。これも時代の流れか、そこへいくと俺たち水辺の村は

賑やかだ。いろんな奴らが寄ってきたよ”

廿七日(旧二月八日)は、大井戸鬼子母神の縁日。今日はみんな揃った。自動販売機が壊れていてあったかいお茶もなぐ大きなパンで賑やかだ。沈丁花が咲いたとその一枝を貰って帰る。こうやって集まれんのも幸せだ。昔の婆さんらもこうやって集まったのかな。またなあ。と、分かれていった。

鶯の声があちこちで聞かれる。文化センターに行く途中の林の中に、家近くの森の中に、周囲の様子に変化が目立つようになった。土手に堤に畔に、緑色が増えた。梅の香りもよい。花も白、桃色と様々だ。閑居山古墳の麓に可憐な一本がある。淡い紅色の花を今年もつけた。対岸の月見台の駅から大和へ帰った人を思っ今年も咲いた姿に見える。冷たい朝、足元も冷たい。久しぶりに吐く息も白い。水鳥が動かない。湖、空、道も区別がつかない。里山、谷津田の方へ歩いていくと、晴れ上がっていった。大井戸、霞ヶ浦の方へ吸い込まれるように去っていった。一瞬の出来事、陽射しが体を温みで包んでくれた。

梅の香りが県道に漂う。今年、県道に歩道が出来るので、この花も今年が見納めとなる。花を愛で、実を梅干にしてきた三十数年、それを思うと淋しくなる。枝を折って玄関先に飾って数日楽しんだ。

三月三日はひなまつりなのに宿題に追われ石岡のひなまつりも、自宅の祝いも楽しめず、旧暦二月三日にかけて“御留川”の作業の草餅に舌鼓を打って終わった。

啓蟄 三月六日(旧二月十五日)

「蟄(ちづ)」とは、虫などが土中に隠れていること。土の中で冬ごもりしていた虫が穴を啓(ひら)いて地上へ出てくるさまを表わします。

6日〜10日 蟄虫啓戸(すこもりむしとをひらく) 土の中で巣ごもりしていた虫が、暖かくなつてきて地上へ出てくる時期

11日〜15日 桃始笑(ももはじめてさく)

桃の花が咲き始める頃、「笑う」は「花が咲く」を意味する。春らしさが感じられる時期。

16日〜20日 菜虫化蝶になつて飛び回る時期。

庭先にかまきりの巣が落ちていた遠い日、子供と見ていた光景を思い出した。木の枝に縛りつけ毎日毎日「今日は出てくるか、生まれてくるか」と見ていた。ある日巣の中から出てくるわ、出てくるわ、小さなかまきりたち、やがて草むらの中に行つてしまつた。親がいなくても自分の力で大きくなるのだろう。仏の座が背を伸ばして畑一面をおおう。犬のふぐりは青い首を振っている。ペンペン草は枝を張つて小さな花を咲かしている。

春眠暁を覚えず、緊張感がなくなつたのか、暖かき、明るさに甘えてか少しぼーっとしがち。時間の差も戸惑う事が多い。心ひきしめ部屋の片付け、衣服の取替えに力を入れる。

彼岸入りから中日、そして彼岸明けの期間はやはり身をつつしんで過ごした。大井戸運動公園(御留川の方からいうと、十六日川附近)で“花火”が上がつた。秋の行事の為の試運転とか。楽しみだ。

春分 三月廿一日(旧二月卅日)

春の彼岸の中日に当り、墓参りに出かける人が多い時期です。この日は昼と夜がほぼ同じ時間になる日です。

21日〜25日 雀始巢(すずめはじめてすくう)

雀が巣作りの準備を始める時期です。陽気が良くなり心が浮き浮きする頃。

26日〜30日 桜始開(さくらをはじめてひらく)

桜の蕾が膨らみだ出してやがて咲き始める時期。春本番の陽気となる。

31日〜4月4日 雷乃発声(かみなりすなわちこえをはつす) 春になつて恵みの雨を呼ぶ春雷が鳴り始める時期

お彼岸は本当によい。住職との話しの中で、息子達、娘達の状況の話の中で、先祖への感謝の気持ちを感じながら生活していく心は変わらないことを確認したが、今後の我家の行く末を思うと不安も残る。いつの日かみんなで真剣に考えねばならないだろう。

やさしい桃色と力強い紅の桃が咲いた。菜の花の黄と実の色合いがいい。来年少木たちも無い、花も見ることはない。せめて実生を育てたいが。

六十六・七年前の青春時代、高浜駅には枝垂れ柳が若芽をつけて揺れていた。鶏が枝から枝へと止まったり、歩いたりしていた。水槽には霞ヶ浦の魚が泳いでいた。みんななくなつた。西の方には筑波の峰がどつしりと、山々従えている。東の方にたまりの郷をみながら土浦へ向かつた。末娘を呼んでコーヒーを飲みながらのお喋り、楽しいひとときだった。(参考…高島暦、農業暦)

尾形山横穴群夢窓窟 小林幸枝

古墳時代後期の横穴墓。尾形山横穴群の1基で、鎌倉時代の禅僧・夢窓国師がこの横穴で座禅をしたという言い伝えがある。玄室、羨道からなり玄室部は長さ約5m、幅約2・8m、高さ約2mを測る。天井部は寄棟形をしており、奥壁に沿つて棺座が設けられている。



夢窓窟

臨済宗の僧夢窓国師(疎石)とその弟子が、座禅修行をした場所といわれていますが、もとは古墳時代の横穴墓を再利用したものです。

国師は友人の招きで嘉元元年(1303)、奥州に下向し、同三年鎌倉に向かう途中、白庭にあった行脚僧の宿泊施設「接待庵」に泊まり、庵の比佐居士の勧めで座禅修行をしたといわれています。

『夢窓国師年譜』には、樹の下や閑処で座禅して心を澄ましたと書かれおり、五月末のある日、樹の下で夜が更けるまで座禅修行して疲れ、床に入ろうとして転倒、この時忽然と悟りを開いたとされ、時に国師は31歳でした。十月、鎌倉に戻つ

た国師は、仏国禅師を訪ねて悟りの境地を報告しています。

国師にとってこの白庭は重要な地であり、後に臨川寺の荘園となり、国師の遷化後には鎌倉円覚寺の正統院に寄進され、その年貢は国師の年忌供養費に当てられています。後年、国師開基の正宗寺(常陸太田市)の幻住庵が当地に移され、江戸時代の寛延三(1760)年に国師四百年忌がここで営まれたといわれています。

〔北茨城市指定文化財 史跡第2号〕より



住宅街の中なので、大変分かりづらい場所でした。でも大変貴重なものでした。

私は、この夢窓窟の前で合掌しました。

十王前横穴墓群

小林幸枝

十王前横穴墓群(通称 かんぶり穴)は、十王川に面する丘陵の西斜面にあり、二十九基の横穴墓が確認されています。

横穴墓とは、古墳時代の墓制の一つで、丘陵の斜面に横穴を掘って墓とするものです。



この横穴墓群の特色は、玄室(墓の内部)の規模が大きく、奥壁が台形で、石を敷きつめた一段高い床面を設けた横穴墓が多数存在することですが、最大の特色は、玄室の壁面に三角形や菱形、靱(矢)を入れるものなどの文様が線で刻まれ、それらが赤色や黒色などで彩色された三基の装飾横穴墓が存在することです。

装飾横穴墓や装飾古墳は、九州地方に数多く分布しており、この横穴墓群の装飾横穴墓も、九州地方との関連性が考えられます。

〔日立市指定文化財 史跡第五号〕より



看板には、二十九基の横穴墓と記載があります。

たが、私はなんとか14基まで見つけることが出来ましたが、見学しやすいように市と県で協議してこれらの整備していただければ嬉しく思います。千三百年前の人々が作ったというこの遺跡を見て長い歴史の重みを感じました。十王川沿いに入口がありますが、こちらもわかりにくいです。駐車場が近くに無さそうだったので、途中どこかの空地に停めて歩いて行くのが良そうです。

「かんぶり穴を守る会」のボランティアの方達が、通路・階段・崖の落下防止柵のロープなどを整備していました。これらの活動は見学者にとっても大変ありがたいと思いました。



私は、こちらのかんぶり穴横穴墓群の前でも合掌しました。



風と共に 《理》 (31)

大輪啓展

季節毎にテーマを変えて、

今回のテーマは、「能力」

花冷えの日が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

3月・4月は、別れと出会いの時期でもありませんね、学生さん達は卒業と入学、社会人は人事異動や新入社員、定年退職等々、人それぞれ様々なワンシーンとなるでしょう。

今回は、能力と言ったテーマで展開していこうと思いますが、

そもそも、能力と言いましても様々な能力がありますが、皆様の得意とする能力は何がありますか？

これだけは自信あるよとか、これは負けないよ、何でもものが一つでもあれば大層結構な事です。

適材適所と言った言葉も有るぐらいですから、人それぞれ何かには当てはまるのではないかと思えますが、例えば自分にとって不得手な事に挑戦し続ける事はとても困難ではないでしょうか。

先程皆様には何が得意ですか？と質問しましたが、これですとすぐ答えられる人がどの程度いるのでしょうか？

私も日々の業務の中で、ふと考えてしまいました。

人を管理していく中で、当然得意な事を実践させる采配をする事が望ましいでしょうが、個人面談を実施してみたり、自分の評価を客観的にさせてみたり、

勿論その中でも、何をやらせても卒なくこなし、及第点あるいは予想を超える業績を残す人も当然居ますが、全体の数から考えても20〜30%程度でしょうか、それ以外の約7割強の方々は特に評価を下すこの時期には頭を悩ませる事この上ないのです。

往々にして言える事ではありますが、能力の高い人程自己評価は適切です。

何が言いたいかと申しますと、約7割強の方々は過大評価なパターンが多いと言う事にもなりますね。

だからこそ、自分が今この程度なんだと理解させるのに苦労するのです。

当然、お給料に関わる事ですから、自分の評価を高くして昇給なり昇格なりを目指す所ではあります、その中には適正さがとても重要となります。

仕事だけではありませんが、何事にも背景があつて過程を通して結果に繋がるわけですが、結果だけを報告されても困りますよね、

何の為に行つて、その過程でどの様な事をしたのか、その結果は何をもたらすのか、当然の流れですが何をどうすればその様な話になるのか、理解に苦しむ場面が多々あります。

理解能力の高い人には、説明も言わんとしている事も、必要以上に必要ないのに対して、理解能

力の低い人には、同じ事を何度も話す必要がある、私としてはそれが嫌な訳では無いのですが、公平では無いと感じてしまうのです。

上記な2パターンの2人が同じ給料、あるいは多少の差はあれど働きに見合う現実では無いからです。

これに対しては私も会社に対し声を上げる1人ではありますが、7割強が闊歩する世の中ですから、当然その風当たりも強くなるのです、そして変える事が仮に出来たとしても何年もの時間を費やす必要があるのです。

本来、この様な事は会社としてもマイナスなだけだと思いますが、その負の状態はその他大勢には心地よいでしょう。

能力の高い人、努力して苦労している人が報われない、そんな会社は社会に愛着等皆無です。

そんな中でも一所懸命に働く選抜・上司がいるからこそ、そこに踏み留まり7割強の人達を引っ張っているのだと思います。

ですから、仕事に関しての私の持論としましては、自分が得意とする事を見つけるまで、転職を繰り返してでも見つけるべきです、転職を良しとしない現状はこれに合わせて変化すべきだと思います。

1所に長く勤める事が美德とされている今の日本は変わるべき時です。

様々な現場では、人が炙れている所から、人材不足の所まで、多様にあります、企業からすれば人

件費等の問題も出てくるでしょうけれども、最初の数ヶ月を本採用では無く契約期間として、その契約期間中に適性があるかどうかを、企業側と働き手の間で議論しながら採用するシステム、或いは一つの企業でも様々な部署に短期的に異動させながら、都度評価して行くシステムを構築して、働き手側が自分の特性を見つけられる様変化する事も、今後の高齢化社会にはとても重要なのではないのでしょうか。

能力の高い人達が搾取され疲弊され損して行く様な今の現状は打破すべき所と思います。
学生の頃、将来の仕事は何に就きたいですか？との質問に自信満々で答えた方達の中で、どの程度の方が現実には満足出来る仕事だと答えるのでしょうか？それではまた次回。

思考探求消えた地名「星の宮」 西方保男

“星の宮”なんと美しい地名だろう！しかし、現在、私の住まいする石岡市の地図上からは、星の宮という地名は消えて見当たらない。書店で新たに求めた地図上にもない。

そうか！今は消えた旧地名なのかも？星の宮の地はどこか？尋ねてみたい、そんな思いがつのってきた。

それから、星の宮はいずこに？思考探求の始まりだ。すると、徐々にまさに“星の宮”の明かりが見えはじめてきたのである。

『歴史の町石岡による』と、日天宮・月天宮・星

の宮、常陸国の中心にこの、日、月、星の三神が建てられたのは天平(西暦七一九年―七四八年)奈良時代の初期の頃である。後に三晃宮として知られるようになった。三つの星で作られた宮殿という意味である。日天宮(太陽)と月天宮(月)は、国街(こくが)の南につくられた。

星の宮は北極星の位置を象(かたど)り北側に建てられた。その後、星の宮は常陸総社宮のなかへ合祀(ごうし)移転されて現存する。(歴史の町石岡より)。

現地に行ってみると、かつてあった場所(小さな公園の敷地跡)には銅版の「星の宮町」の看板が設置されていた。

続いて、常陸国総社宮「例大祭歴史と現況」によれば、星の宮について、次のようにある。『かつて府中三光宮の一つ、星の宮の地である。祭神は星を神格化した天香々背男命あめのかせおのみことであり、国府官人の尊崇を受けたという地。近世中期頃までは毎年三月十五日の祭りが念仏踊りで賑わった、とある。

遙か悠久の歴史を踏んだ常陸の国の地域へ辿り行くと、かつてこの地を生きた先住の諸人(もろびと)たちの息吹きが耳朶に響くようである。この石岡の地に三晃さん(さん)↓日天宮、月天宮、星の宮社があるというので足の向くまま尋ね歩いてみることにした。

この三晃の宮を順次辿ってみた。それぞれの案内板に、石岡には、常陸国街ひたちこくがが置かれ、この三社を把る社殿が創建されたとある。日天宮は国分七丁目、月天宮は石岡市貝地一丁目、星の宮は府中五丁目に同時代に創建された。

のちにこの三社は、府中三光宮と呼ばれるよう

になったが、現存するのは、この月天宮と日天宮で、星の宮は、地名にその名を残すのみとなったという。月天宮の祭神は、月読命(つきよみのみこと)で本殿は関口六メートル、参拝口と同じ大きさの奥の院が張り出しになっている。また境内には月天宮が古くからこの地域の人々の信仰を集めたこともあって、子安観音宝、弘法大師堂などがある。大師堂には、念仏講中の老人たちが家々を回って数珠を繰り、念仏往生を祈願したという「百万遍数珠」が保存されているとのこと。

「石岡市教育委員会・石岡市文化財保護審議会」古代仏教では阿弥陀仏を中心にして、観音菩薩(かんのんぼさつ)、勢至菩薩(せいしぼさつ)、虚空蔵菩薩(こくうぞうぼさつ)を配していた。それは「日天子、月天子、星天子の化身」であるとして、古代信仰の「日、月、星」が基本にあったからだといわれている説もあるようだ。

これら、三晃の宮「日・月・星」は、先の古人たちの絶えることなく、今から千三百年も前から厚い信仰心で支えられてきた。

その源泉としての古代の信仰とは三位一体の信仰が主流だったと考えられている。では、それら古跡の建立は古人によってどのように位置選定がなされてきたのであろうか興味深い。

それらについて、碩学の研究から学んでみよう。山田安彦は「古代の方位信仰と地域計画」で次のようにいう。常陸国府は石岡市の市街地の範囲内にあったと推定され、四至には神社があったと推定されている。なお、この国府の南北中央線の北方への延長上約四〇〇メートルのやや西寄りに『星の宮』が鎮座する。これは国府内国街(こくが)の正北方に当る。

国府の北に『星の宮』を勧請したということは、太一思想に基づく北辰信仰と、さらに密教の影響による妙見菩薩信仰と大いに関係があると考えられる。そして鹿島・香取には北辰信仰が隆盛になる基盤的要素をそなえている。このような下地があったので、畿内からの仏教の普及により、妙見信仰も盛んになった。なお、それら付近一帯は、平将門に関する諸伝承によっても影響され、後世にはさらに、妙見信仰が広く厚くなったのであらうという。

北辰とは、北極星のことで、妙見菩薩は北極星を仏格化した、わが国では、古代王権確立以前から、この北辰信仰を篤く信仰する人々がいたといわれているのである。ところが、こうした北辰信仰の壮大なムーブメントは国を揺るがすほどの大潮流となったようである。

奈良時代には、北辰信仰が畿内から、地方にまで拡大していった。また平安時代には、朝廷においても、北辰に灯を献上する祭りが行われ、職を忘れ業を擲（なげう）って、相集い風俗を乱すに至ったので、延暦十五年（七九六）同十八年、弘仁二年（八一一）と重ねて禁令が出されている。次に、『桓武天皇の北辰禁止勅令』について、平安初期の延暦十五年（七九六）三月十九日、桓武天皇は、次のような北辰禁止の勅令を発した。

勅令「京畿民（きょうきみん）、男女混淆（こんこう）、職を棄て、業を忘れ相集いて北辰を祀り、風俗を壊乱（かいらん）するを禁ず」とある。『類聚国史』

常陸国の中心に、三晃宮「日天宮、月天、星の宮」が建てられたのは七一九年から七四八年（天平、奈良時代の頃であるという。

その後、星の宮が総社宮に合記されたのである。この星の宮の祭神は、天香々男命あめのかかせのみことだといわれている。この神は星を神格化した「尊（みこと）」である。

この神は太一（たいいつ）思想に基づく北辰信仰と、密教の影響による妙見菩薩信仰と大いに関係があるといわれる。

鹿島神宮においても三月二十一日北辰祭りがあり、万灯会と称されたが、維新後廃されたらしい。県内には古代星の信仰に基づき祀られた社は認められないという。

朝廷は、天皇の勅令を出すほど事態の状況を看過できぬほどだったのであらう。この北辰祀りに対する禁令は、延暦十八年（七九九年）十月と弘仁二年（八一一）九月にも出されていて、京都近郷の百姓が斎王の伊勢斎宮へ入御する日に、北辰を祀ってはならぬと、厳しく通達している。

状況としては延暦十五年の勅令以前に、星祭の禁止令はしばしば出されていたらしい。ところが百姓にこれを伝えるべき下級官吏はその伝達をおこたったばかりか、民と一緒に北辰祭りに加わった。しかも官民あげておのれの職域、商売を放棄してしまい、男女相交わって風俗を乱すというのだから、もはや放置しておけなかった。容易ならざる事態は、単なる社会問題ではなく、百姓からの貢納を麻痺させ、末端での政務を停滯せしめるなど、災禍は政治経済の分野まで影響を及ぼすに到ったという、なんということか？

ところで、この星の宮を信仰する常陸地方の豪族や先住部族に対して、畿内大和朝廷側から星の宮の信仰を禁止する、または移転、撤去すべしなど、国府庁・国衙を統括する官人に勅令等は降らなか

ったのか？ 常陸の国、石岡の地の妙見、北辰、太一を信仰した古代からの先住民と消えた星の宮社について、神代から下った奈良、平安初期の延暦十五年（七九六年）三月十九日の勅令の真実は奈辺に？

参考 古代の方位信仰と地域計画（山田安彦・闇の日本史（沢 史生）・茨城の神社覚書Ⅱ（鎌田敬司）ふるさと石岡・歴史の散歩道（2）・「13」三光の宮（木村 進）



少年時代

ヤマナカタダオ

私は令和5年1月で満80歳になりました。ここ菅谷（すがのや）町に住んで57年になります。私の実家は、土浦の旧市内にありました。現在の土浦市の人口は、約14万人ですが、昭和15年の11月3日に、土浦町と真鍋町が合併して、土浦市となり、人口は3万5567人となりました。私は五人兄妹の男の三男として、昭和18年1月に生まれました。

私が生まれて、小学校一年生に入学した時には、家族は祖父母と両親と、兄二人、それに三歳の妹の8人家族でした。後に末の妹が昭和25年に生まれて、総勢9人家族でした。

私が入学した下高津小学校は、昭和24年4月は、一クラス65名でした。三クラスありましたの

で、一年生全員は二〇〇名前後でした。

担任は女性の滝先生でした。校長は大柄な久松先生でした。二年生の一学期に、満開の桜の木に登って、毛虫を上から下に落とす悪戯をして、職員室に呼ばれてこっぴどく、校長先生に叱られました。

昭和20年代初めの頃の土浦駅は、西口だけでした。階段を下りてロータリーに出ると、当時はタクシーではなく、人力車が主流でした。一人乗りの乗り物で、俵夫が引いていました。我が家では祖父母達が、医院の往診の時に、中城町の矢野医院の先生に、往診してもらう時に、利用したことがあります。

一年生に入學する一年前に、母の実家の筑波町北条に、母と一緒に里帰りしました。確か一泊しました。母の実家は、和菓子屋でした。製造小売りをしていました。土浦駅から、岩瀬行に乗り、北条駅で降りました。

筑波線は単線で、ディーゼルカーでしたので、なんとも言えない音がして、楽しかった思い出が、昨日のように頭に蘇えます。

和菓子屋には、一歳下の男の子がいて、相撲などを遊びました。その男の子には、兄と姉二人がいました。



小学校時代の一年生の秋に、七五三の行事があり、我が家でも、私が主役でした。その年の11月

15日の祝いとして、朝、学校に行く前に、両親が、近所の子供達を、我が家に招待して、お汁粉などを振る舞いました。楽しい一時でした。学校に行つて自慢しました。

小学校二年生の時に、富士崎町に土浦第二小学校が完成したので、私達二年生は、二期から、土浦小学校の転校生と一緒に、晴れて、第二小学校の二年生になりました。担任の先生は忘れしました。一クラス40名ほどで、四クラスありました。校長先生は、佐竹先生でした。自宅から小学校までは、歩いて10分ほどの所にありました。近所には同じ年の子が男3人、女2人がいました。

私達の遊びは、専ら、面子やベーゴマ、それにビー玉遊びです。スポーツは、軟式野球や草相撲、それにバトミントンでした。見るスポーツは、当時はテレビがなかったもので、年4場所の相撲をラジオで聞くのが唯一の楽しみでした。私はプロ野球には関心がありませんでした。よく夏休みになると同級生や、近所の先輩達と霞ヶ浦まで水遊びに出かけました。自宅から湖までは、約6kmぐらいありました。私の家は八百屋とせんべい屋を生業としていたので、昼の弁当はトマトでした。小学生の低学年でしたのでまだ泳げませんでした。水遊びは楽しい一時でした。しじみ採りや、大きさ20cmぐらいの『たんかい』も採りました。上級生になった時の、夏休みは、町内の子供達や親と一緒に土浦港から船に乗り、大きな『さつき丸』に乗り、桜川村浮島まで、淡水浴に行き、ゴムボートや、浮輪で遊んだりしました。

昼時には、スイカ割りなどとして、一日を楽しく過ごしました。それから別の年には、那珂湊市

の阿字ヶ浦海水浴場に町内で行きました。汽車で行ったか、バスで行ったかは記憶にありませんが、私にとっては、思い出深い出来事でした。その日の晩は、体中がヒリヒリ痛かったのが、昨日のように思い出されます。毎年夏休みに入ると、町内は、土浦市内の祇園祭に参加します。旧市内の山車は、高さ3m以上の立派なものです。私達の町内のは、獅子舞の山車です。

子供達が、夕方に町内を出発して、土浦駅まで、二時間弱かけて、山車を引っ張ります。途中、休憩の時は、アイスクャンデーや、お菓子、西瓜を食べました。

ところで、私の父は、明治43年の生まれで、母は大正3年の生まれでした。昭和27年の秋に、祖母が77歳で亡くなり、翌年の秋に、祖父が77歳亡くなりました。子供心には、葬式は親戚が沢山集まり、おいしい御馳走が出るので、悲しみは無かったです。私も、昭和29年の春には、小学6年生になりました。一番上の兄は、家業を手伝っていました。二番目の兄の勇さんは、土浦一高の一年生になり、毎日、自転車で真鍋台の高校まで、通学していました。私の六年生の担任の先生は、『土浦市鷹匠(たかじょう)町の瀧泉寺の生まれで、父親はお坊さんでした。名前は斉藤せんせいでした。先生は昭和4年の生まれで、当時は25歳ぐらいでした。瀧泉寺は、昔は亀城公園の近くにあったそうです。昭和30年の卒業式には、まだ校歌は出来ていませんでした。校歌が出来たのは、私達が卒業した後でした

私は、昭和30年3月に第二小学校を卒業しました。当時の土浦市の人口は、7万2200人住んでいました。ところで、3月の卒業式には、4

月から土浦第4中学校に入学するので、2月に親が買ってくれた詰襟の制服は、ボタンは5個ありました。小学生の時は、普段着で登校していたので、卒業式の時は、大人になったような喜びがありました。校歌は、まだ出来ていなかったけど、悲しい思い出はなかったです。ただ親友が、土浦第一中学校に行くのは、寂しい気持ちになりました。親友の三好町のK君は、二〇代前半に、交通事故にあい、悲しかったのが走馬灯のように、私の脳裏に浮かんでいました。(少年時代終り)



【風の談話室】 《読者投稿》

やわと暮らし (72)

やと女

今号から季刊になり、冬から春までの八郷散歩になります。まず、今の様子・・・ビツクリ!ビツクリ!二三日前まで、「桜は咲いたの?」「ん・・・まだかな?」こんな会話をしていたのに・・・?それがもう・・・あっちでもこっちでも、華やかなピンク色の景色が凄いい、一挙に満開です。

・年末のこと・・・年明け4日前。内科検診も済み、年2回の歯科検診も済み・・・今年最後の生協配達日、お餅が届いたので1個食べてみようとして1口食べた瞬間、突然に違和感が、右奥歯のブリッジと左奥歯のかぶりものが取れたのです、これではもう餅は食べられない。

慌てて歯科に駆け込み処置をしてもらった。お餅には気をつけないと、歯科が休みに入る前で本当によかった。帰ってから見た夕焼けきれいだった。・明けましておめでとうございます 今年もよろしくお願いします

年明けの朝は寒かった・・・室内温度8度程度だったが、近くの溜池は全面結氷。そんな池を眺めているとカワセミに遭遇、右手の藪から斜め左藪まで低く飛んだのです。水色が翡翠色というか、思わず“ア!”と声をあげてしまった。いい年になる予感がしましたよ。

・1年ぶりに息子夫婦が帰省・・・久しぶりに会話のある夕食。テーブルには姪から送られて来た三浦半島の海産物の数々。毎年の事なので特別おせち料理は作りません。そして翌日は地元の常陸の国総社宮に初詣。息子夫婦は仲良く鯛釣りのおみくじなどで、大吉が出たなどとはしゃいでいた。こんな平和な日常がいつまでも続きますように、と祈った。

・花粉の季節がやってくる・・・散歩コースの杉が真茶色で飛散準備完了。今年は花粉の量10倍超とか?憂鬱な季節です。暑さ寒さの振幅が大きい、今朝は庭にある井戸の蛇口が凍っていた。昼頃はだいぶ暖かくなったので早めの散歩に、豊後荘病院の梅林では数人の職人さんが剪定をしていた。梅の蕾が、だいぶ膨らみ、1部咲き始めていた。

春の訪れが待ち遠しい・・・この、キンキンとした空気感嫌いではない。里山が再生され子供たちが駆け回りお金は無くとも、自然の中で豊かな心で過ごせるといいですね。いいニュースがない昨今・・・つくづく思います。

・豊後荘病院近辺がどんどんきれいになって行く。

今日は少し離れた池の鴨に会いに行ったが、残念ながら外出中だった。だが、驚いた事に何十年もの間、ヤブに被われ足を踏み入れられなかった所が、整備されており、池の奥まで歩けるではないか。更に歩いて行くと、プロバンス下の桜広場に繋がっていたので、驚くと共に大いに感動した。むかしむかし、池周辺がきれいだった頃、父は毎日のように釣りにきていた。週末には子供たちも釣りでにぎわっていた。今日は懐かしすぎて、もやもや気分がすっ飛んだ。暖かくなつてからの散歩にもってこいの場所ですね。この様な所を歩きたいな。

・水戸にある老舗で割烹料理店を営んでいた、まんまのマスターの幼友達・・・今日は、嘗ての料理の腕をふるってくれるからと誘われた。茨城産アンコウの「吊るし切り」が、そして溝汁など諸々の料理が振舞われた。皮がヌルヌルしているの、組板は使えない・・・吊るして料理ですよ。すべて食べられるのが凄いい、お変わりの行列が・・・。

・朝の冷え込み強い、近くの溜池は全面結氷。今年初めての定期診察日(血圧など)病院では医師が5人もコロナで休んでいる。そのため発熱外来はお休み・・・担当者が対応に追われ大変そうだった。院内に入ると、診療体制の都合により初診の受け付け制限の張り紙があった。幸い私の主治医は出勤しており、無事診療を終える事が出来た。

【2月】

・いつもの散歩中気が付いた、昨年まで沢山の実をつけていた柿畑が綺麗に伐採されていた。そういえば柿畑の持ち主さん御主人が亡くなった後、

何年も一人で頑張っていたが、最近よく弱音をはいていた。指や膝が痛くて木の剪定ができないと。そんな事を思いながら散歩していると、その持ち主さんから声を掛けてきた・・・伐採した木使うなら持つて行きな。そんな訳で我が家の薪ストーブ用に頂く事にした。太い木を選んで、車に積むも相当な重量何日もかけて無理なく運んでこう思う。

・師匠から聞いた笠間のギャラリーへ出かける、其処は竹細工教室や作品を扱っている店舗。お店には丁度竹編み教室の先生がいて、一緒に出掛けた3人から様々な質問がとんだ。店舗の2階はレストランで、お腹を満たした後、笠間に移住した方のお宅を訪問。そのお宅では、庭づくりの真最中・・・田舎暮らし満喫中だった。色々と楽しい1日でした

【3月】

・お隣の樺と橡の大木には癒されています。然し大木の根っこが屋敷まで延び、土台を押し上げており、また、災害等で落木も多く危険なので止むを得ず伐採するようです。機材を入れて大がかりな作業になるようです。早朝6時東の空が赤く染まり、朝日をバックにしたお隣の樺と橡素敵な景色を見せてくれていたが、間もなく伐採です。・お隣の巨木の伐採作業ははじまる、準備と重機が凄い・・・細い土の道に鉄板を敷いて次々と機材が運ばれた。13トンのクレーン・・・これでは足りない、20数トンのクレーンが追加された。ソラシと呼ばれる職人さんが、クレーンの高所から樹木に移り、20メートルを超す高所作業・・・命がけです。序に我が家の気になっていた公孫樹

と胡桃の木も伐採して貰う。早朝から日暮れまで、まるまる二日がかりの作業だった。

・伐採した木の切断等の薪作りに励んでいる。乾燥して、薪ストーブに使えるようになるには3年後位かな？体力が続きませんが、やるしか無い。気長にやって貰うが、何れ薪割り機を貰うかな。

・フラワーパークでの「八郷マルシェ」が始まった。雲一つない青空、若者たちに混じって楽しんでいます。

朝早くから準備作業。若者が頑張る中で、我が師匠のテントの準備が完了した。

・FBにアップされたお庭の花々につられて、友人宅を訪問。ミモザ満開、そして多くの種類の椿やいろいろなお花が迎えてくれた。そして手作りのアップルパイ、旦那様の焼かれた温もりのあるうつわで頂くコーヒー。至福の時間で話が弾み楽しい時間。頂いたミモザの枝は玄関先に飾り、おみやげのキムチは暫く楽しめます。いつも美味しい夕食をアップしている彼女に、夫は養子になりたいと言っている。

・中国貴州省の民族衣装展示の案内状を頂き笠間まで。春爛漫・・・桜が満開の小さなギャラリーでは、民族衣装に魅せられて、長年収集した貴州省の民族衣装の数々が処狭し・・・と展示されていた。衣装は織り、染め、刺繍と、1点1点素晴らしく、どんな人がどんな所で織り、どんな時に身につけたのかな？などと思ひ巡らせながら、見せて頂いた。真向かいには春風万里荘があり、久しぶりに見学した。

・豊後荘病院の桜が満開。一人花見も寂しいので、友達を誘っての花見。感動を共有した、そこで出会った病院周りを整備しているスズラン企画の方

から、今後の楽しい計画等話を聞いた。そしてアーモンドの花が咲いている所を聞き、早速訪ねる・・・小高い畑にたくさん植えられていた。私の中でアーモンドの丘と名づけた。豊後荘周辺ますます楽しみです。

辞世の句

出山 敏文

辞世の句とは、この世に別れを告げる時に残す偈頌(げじゆ)、詩歌などを言う、と、広辞苑に載っています。

人(ひと)はこの世に生まれたからには、必ず早い遅いの違いはあるものの、死が訪れることは誰もが承知のことと思います。その死は何時、どのようなかたちで訪れるか誰にも判りません。その例として、一九八五年群馬県上野村御巢鷹の尾根に、日航ジャンボジェット機が墜落し、死者五二〇人が亡くなった事故で、歌手の坂本九さんが亡くなっています。又最近では、昨年、奈良市内で、安倍元総理大臣が街頭演説中に暴漢に銃撃され亡くなった事は、周知の事実です。この様に人(ひと)の死の訪れは、誰にも判りません。

私は、忠臣蔵の赤穂浪士討ち入り事件に興味があるので、まずは、忠臣蔵の主人公二人の辞世の句から紹介したいと思います。

(1) 浅野内匠頭長矩は、播磨赤穂藩主で、勅使饗応役を任命された時の上司である高家筆頭の吉良上野介義央との軋轢(あつれき)により、江戸城内松の廊下で吉良に背後から小刀で切りつけた事件によって、時の將軍(五代)綱吉が激怒し、田

村右京大夫建頭へお預けとなり、即日同所庭先で切腹となる。吉良には、お咎めなしであった。吉良に切り付けた時、「此間の遺恨覚えたるか」と言ったといわれているが、家臣、妻、近親者等にも事の本心を言わなかったため、真相は今日だに謎（なぞ）である。

辞世の句については、「多門伝八郎覚書」に記されているのみで、多門伝八郎が創作したのではと考えられている。

辞世の句

「風さそふ、花よりもなを、

われはまた、春の名残を、いかにとかせむ」

(2) 大石内蔵助良雄は、赤穂藩浅野家筆頭家老を勤めて千五百石の高禄をもらっていた。先祖をたどると、平将門を討ち取った、藤原秀郷で、近江国栗太郡大石荘にあつて下司職を司どっていた豪族だった。元禄14年（一七〇二）3月14日、主君浅野内匠頭長矩が、江戸城松の廊下で刃傷事件を起し、主君が即切腹となり、相手の吉良はお構いなしとなる。

その後、家臣を集め評定の結果赤穂城引渡しを決定するも、内蔵助は内々に主君の敵討ちを胸に秘め、ついに元禄一五年（一七〇二）十二月一日、本所松坂町の吉良邸に討ち入り、仇討ち本懐を遂げる。

辞世の句

「あら楽（たのし）や、思いははるる、

身は捨つる 浮世の月に、かかる雲なし」

(3) 豊臣秀吉は、尾張国中村の百姓の子として生まれる。侍になりたくて後に織田信長に仕え、

足輕の身から知略を重ね、本能寺の変後明智光秀を滅ぼし、天下を統一大阪に築城し、末は関白太政大臣までになった人物である。

有名な逸話として、主君（織田信長）の草履を懐に入れ暖め心証を得たり、一夜にして城を造って見せたり、本能寺の変をいち早く知り、四国攻めから京に引き帰り、明智光秀を滅ぼしたことは有名である。

辞世の句

「露と落ち露と消えにし、我が身かな、

浪速（なにわ）のことも、夢のまた夢」

(4) 織田信長は、一五三四年尾張国（今の愛知県）に、父織田信秀の長男として生まれる。父の死後、弟信勝と家督争いとなり、弟を殺し家督を継いだ。その後隣国の今川氏が攻めて来たため桶狭間の戦いとなる。織田が勝利し、次に北部美濃（今の岐阜県）を攻略し、本拠地を岐阜に移し勢力を拡大していったが、戦況を一変する本能寺の変が起こり、家臣明智光秀の謀反により死亡する。信長は、比叡山延暦寺を焼き討ちしたり、歳わもいらない17才の侍女が、座敷に落ちていた果物の皮を片付けないと斬り殺すといった、残忍な性格といわれているが、反面長男を産んだ側室が死んだとき、三日三晩泣きとおしたり、キリシタン宣教師が母国に帰る時、城下の明かりを消し、お城全体に提灯（ちようちん）を掲げ、別れを惜しんだとも言われている。

辞世の句

「人間50年天下のうちにくらぶれば、

夢幻のごとくなり、一度生を受け、

滅せむ者あるべきか」

本能寺での最後の言葉 「是非に及ばず」

(5) 徳川家康は、一六〇〇年天下分け目の関ヶ原の戦いに勝利し、その3年後に征夷大將軍に任命され、江戸幕府を開いた初代將軍である。その数年後、息子の秀忠に將軍の座を譲り、二代秀忠に譲った後は駿府城に戻り、大御所として実権を握り続けました。そして武家諸法度（ぶけしよはつと）、禁中並公家諸法度（きんちゅうならびにくげはつと）などを出して、徳川政権を磐石のものにし、一六一六年四月十七日、食中毒で亡くなったと言われています。家康は、思慮深い性格とも言われ、側室は、子供を生んだ経験のある女性とし、子供が出来る事又、梅毒など性病防止を考えての事だとも言われています。

辞世の句

「先に行く、あとに残るも同じこと、
つれて行けを 別れぞと思う」

(6) 明智光秀は、出自が不明であり、美濃（清和）源氏土岐一族の明智氏の人とされ、斎藤道三に仕えたが、道三がその子義龍との戦いで敗死したあと、光秀も美濃を逐われ各地を流浪したという。織田信長の妻お市の方（帰蝶）は、道三とその妻・小見の方の娘ですが、江戸時代の初期の地誌「美濃国諸記」によれば小見の方は明智城主の娘で、光秀の叔母であり、つまり光秀と帰蝶は従姉妹の関係だったことになります。そうした縁で信長から誘われたとも言われています。いづれにしても出自は不明であり、光秀の出生候補地は5ヶ所にのぼり、諸説粉々で真相は不明である。

明智光秀といえ言えば、京都本能寺において

主君織田信長を滅ぼした本能寺の変が有名である。辞世の句

「心しらぬ、人は何とも言わばいへ、

身をも惜しまじ、名をも惜しまじ」

(7) 石川五右衛門とは、天下の大泥棒で実在の人物かどうかは不明であるが、出身地は諸説有り、伊賀、遠江、丹後、河内、などがあげられている。丹後説によると、伊久地城を本拠地とした、豪族丹後石川氏の出身で、石川氏は守護大名一色氏の家老職を務めていたが、豊臣秀吉の策略によって殺されてしまい落城し、城主の五男五良右衛門が落ち延びて、大泥棒石川五右衛門になったと伝えられているが、定かではない。伏見城に入りついに捕獲され、京の鴨川の河原で釜風呂の刑となる。この釜茹での刑の俗説から、釜風呂のことを五右衛門風呂と呼ぶようになったと言われています。辞世の句

「石川や、浜の真砂は尽くるとも、

世に盗人の種は尽きまじ」

以上、辞世の句を紹介しましたが皆様はどのように感じましたか？ それぞれの句の解釈は省略させていただきます。最後まで読んでいただきありがとうございます。

参考資料…ユーチューブ、辞世の区、武士の辞世の句他、東大教授の「忠臣蔵」講義(山本博文角川新書)、明智光秀の真実(宝島社二〇二〇年六月十八日発行) 参照

水雲問答

(1)

(木村 進)

【はじめに】

松浦静山 甲子夜話 巻39【1】より

これは江戸時代の(長崎)平戸藩の藩主であった松浦静山公が晩年の20年間に毎日書き残した随筆集「甲子夜話(かつしやわ)」の中に挿入されている2人(水・雲)の手紙による問答集を理解しようとする試みです。

まだ若き上州安中の藩主である板倉綽山(雲)は、若いながら学識も豊かで、勉強熱心な学者風の藩主であった。

その板倉綽山(雲)が師と仰いで意見を求めたのが、林述斎(水)で、江戸幕府の大学頭に抜擢され、その後の江戸末期に活躍する多くの賢人を育てる礎を築いた儒学者である。

年齢は師・林述斎(水)の方が17歳ほど上だ。また、この問答やりとり書簡に興味を持ったのが、松浦静山公で、年は林述斎よりさらに8歳ほど上である。

板倉綽山(雲)は幕府の大学頭である林述斎を師と仰ぎ、論語や易などいろいろな書物を読み、孔子、孟子や古代中国などの人々の考え方を学び取り、中国、日本の戦国の時代に活躍した英雄たちの行動を研究し、国を治める方法について書簡で質問を繰り返しています。これに答えて林述斎は実際に学ぶべき真の理を説いて教えています。また、書簡がある程度溜まったところで、それを纏めることを提案しております。

しかし、ある程度学問が上達しこれからというときに病に倒れて亡くなってしまいました。約35歳くらいでした。

しかし、松浦静山公はやはり、林述斎とは学問を仰ぐ師でもあり、何かと相談をしていたようです。そして、自分は孔子や孟子などの聖賢にはなれなくとも、自分が死んだ後に何か役に立つもの(証となるもの)を残したいと、述斎と相談して、この甲子夜話を書き始めたのです。そしてその甲子夜話の中に、この問答集を挿入しました。

この「水雲問答」の内容は、当時の江戸幕府の藩制の中に限らず、今の政治の世界にも大変役に立つ興味深い内容が溢れています。

今の政治にも見落とされている点が多く書かれていますので、きっと何かのお役に立つと思います。

雲：白雲山人・板倉綽山(しゃくせん) 1785～1820年 上州安中の藩主

水：墨水漁翁・林述斎(じゅっさい) 1768～1841年 儒学者で林家(幕府の大学頭)中興の祖
松浦静山・松浦清(まつらきよ) 1760～1841年

これから、この水雲問答を筆者の拙い訳を加えて順番に紹介していきます。内容的には同じようなことが所々に出てきますが、全部で72項目それぞれに当時の人を治める立場の人の学問との向きあい方なども参考になるかもしれません。

甲子夜話 巻39(1)

安中侯板倉伊与守は年少傑出の資なりき。勤学も頗(すこぶ)る刻苦せしが、不幸にして疾を得て早世しぬ。頃(このごろ)その遺せる一冊を獲て

懐旧に堪(た)えず、且一時の間答と雖ども実学の工夫を助くべし。因て予が『叢書冊子』の中に攬入(さんにゅう)す。白雲山人は侯の匿名なり。墨水漁翁は林子の匿名。

(1) 経国の術と権略

雲…

経国の術は、権略も時として無くばかなはざることに存候。余り純粹に過ぎ候ては、人心服さぬこともこれ有る様に存ぜられ候。去りとても権略ばかりにても正を失ひ申すべく候間、権略を以て正に帰する工夫、今日の上にては肝要かと存候。

(訳)

国をおさめるには、権略(その場に応じた策略)も時としては必要でしょう。

余り純粹に過ぎると、人心が服さないこともあるように思われます。

とは言っても、権略ばかりでは正を失ってしまい、本来の意図することを見失ってしまいます。

そのため権略をもって正に帰する工夫が、今日の上(幕府)には大切だと思います。

水…

権は人事の欠くべからざることにして、経と対言仕(つかまつり)候。

秤の分銅をあちらこちらと、丁ど軽重に叶ひ候処にすゑ候より字義をとり候ことにて、固(もと)より正しきことに候。

仰せ聞けられ候所は、謀士の権変にして、道の権には非ず候。程子の権を説き候こと、『近思録』にも抄出これ有り、とくと御玩味候様存(ぞんじ)候。

(訳)

権(力)は人事において欠くことのできないもので、経(営)とは対の言葉です。

漢字の権という字は天秤(はかり)の分銅のことで、これをあちらこちらと動かして丁度良い所にあわせるといふこと(字義)から生れた言葉ですから、もとより正しいことです。

しかし、貴方のおっしゃっている権略は、謀士(策士)の権変であつて、道の権ではありません。

程子(ていし)…中国の儒学者、程伊川(りやういけん)が権を説いた書(程伊川が朱長文に答えた書)があり、『近思録』にも抄出(抜き書き)がされておりますので、とくと御玩味(熟読)されたらよろしいかと思われます。

(コメント)

ここに、権の持つ意味をよく理解して、人はいかにあるべきかをよく心得て権略をなすことがきわめて大切だと説いています。

権は天秤の分銅であり、政治も圧力団体の陳情などに惑わされず、自分の分銅が常にぴたっと止まる心の位置を守っていれば間違える事はないというのです。



裁判所や弁護士バッチにも使われている天秤の図はよく目にするのですが、この「権」の持つ本来の意味(天秤の分銅)を理解したいものです。

(2) 治国の術と人心

雲…

治国の術は人心を服し候こと急務と存候。人心服さねば良法美意も行はれ申さず。

施し寛に非ざれば人心服し申さぬなり。人心服し候肝要の御論伺ひたく候。

英明の主、とかく人心服さぬ者と。いかがのことに候や伺ひたく候。

(訳)

治国の術は人心を服させることが急務と思います。人心が服さなければいくら良い法を作つて、美しい気持で政治をやつても、それがきちんと行われません。

そのため人民に施すことやまた寛大に対処しなければ人心は服しません。

どうすれば人心が服するようになるのか、肝要のお考えをお伺ひたいしたい。

また、世に優れた英明の主、とかく人心が服さぬ者が多いといわれておりますが、これはどうしてなのかお伺ひいたしたく思います。

水…

施に過ぐることは濫賞(らんしょう)の弊あり。寛に過ぐるときは又縦弛(しようし)の弊これ有り候。是れ等を以て人心を得候は、最も末なる者に候。我が徳義おのづから人を蒸化候処之れ有り候へば、人心は服し候者と存候。英明の主に人の服し申さぬは、権略にかたより候より、人祖

(そ)の為(す)る所を詐欺かと思ひ候ゆゑに候。
蕩然(とうぜん)たる徳意・内にみちて外に顯は
る時、あるもの誰か服せずして有るべきや。施
もすさまじきには非ず。人君の吝(りん)なるは
至つての失徳に候。寛も捨つべからず。苛酷納瑣
(のうさ)の君は下堪へ難きものに候。

(訳)

人民に施(ほどこ)しが過ぎますと、賞をみだ
りに乱発する弊害となり、また寛容に過ぎますと、
規律が弛(ゆる)むという弊害があります。

そのため、施しや寛容などをもって人心を得よ
うとするのは、最も末なる者です。

自分に備わった徳義がおのずから人を蒸化(心
服)させるところがあれば、自然に人心は服する
ものです。

英明の主に人が服さないのは、頭が良いのでど
うも手段・手法などの権略に片寄ってしまいがち
です。そのため、人々はそのする所が人々を騙す
詐欺ではないかと疑いをいだき、信用しません。

自分に備わった大きなスケールを伴った徳が満
ちて、それが外にも現れた人物には、誰もが服す
るものです。

施しも度が過ぎるのはダメですが、ある程度は必
要で、人君(君主)がケチであると徳を失います。

また寛容も必要ですが、あまり小さなことまで
立ち入ってしまう下々の者は堪えられないも
のです。

(コメント)

当時の体制化での人心を服させる方法であり、
今の政治とは少し比べられないところがあります
が、施しや寛容もケチだと思われない程度には必
要だけれど、あまり重箱の隅をつつくような小さ

なことまではしてはだめだという。

また、あまり頭の切れる上司などは、警戒されて
部下から真に慕われているものが少ないようです。
ここでのポイントは、徳がその人の外に自然と現
れるときに、人は従うということでしょうか。

(3) 武の備え

雲・季世に至りて武の備(そなへ)怠らざる仕法
は何(い)かが仕(つかまつ)るべきや。甚(はなは
だ)むづかしきやに存(ぞんじ)候。

(訳)

戦乱の世から時代が経ち、末の世になります
と、武の備えを怠らないようにする方法はどうあ
るべきでしょうか。

この方法はかなり難しいと思います。

水…太平に武を備(そなへ)るは何(いか)にも
難(むづかしき)ことに候。愚意には真理を暫くお
き、まず形より入り候(そうろう)方が近道と存(ぞ
んじ)候。まず武具の用意をあつくして、何(い)
つにても間に合ひ候ように仕(つかまつ)る。

そのわけは火事羽織を物好にて製し候時は、火
事待(まち)て出たき心に成候が人情に候。武具
備れば、ひと働き致したく思ふも自然の情と存候。
さて武伎も今様通りにては参らず候。弓鉄は生
物獵を専(もっぱら)とし、馬は遠馬、打毬(ポロ)
などよろしく、刀槍は五間七間の稽古場にて息の
きれそ候類(たぐい)、何の用にも立ち申さぬ候。

広芝原などにて革刀の長仕合、入身(いりみ)な
ど息合(いきあい)を丈夫に致し候こと専要と存じ
候。是等(これら)より漸々(ようよう)と実理に導
き候外(ほか)は、治世武備の実用ととのひ申すま

じくと存候。

(訳)

太平の世に武を備えるのは、いかにも難しきこ
とと思います。これに対する私の真理の回答はし
ばらくおき、まず形より入る方が近道と考えます。
まず武具の用意を十分にして、何時でも間に合
うようにすることです。そのわけは火事羽織を
物好きで製作しますと、火事が起こったときに活
躍するのを待つような心になるのが人情でしょう。
このように武具が備わると、ひと働きしたくなる
のも自然の情と思われます。(形が整えば、気持も
一働きしたいと思うようになるものです。)

ただ、武伎(武術)については、今までのまま
で良いとは言えないでしょう。

弓鉄は生き物の獵(狩)をするのに専用とし、
馬は遠馬(とおのり)や打毬(だきゅう)、ポロ・馬
術競技)などをするのに使うのが良く、また刀槍
は五間七間(9m×13mの広さ)の稽古場では息
がきれそうな類(たぐい)であり、何の用にも立ち
ません。

広い芝原などで、革刀の長試合をして、入り身
(相手の攻撃を外す身の処し方)など息合(気合)
の鍛錬をすることをすることが大切です。

このことなどから、漸々(ようよう)と実理に導
くこと以外は、今の様な治世において武備の実用
を整える必要はないと思います。

(コメント)

入り身は現在「合気道」などでよく使われる言
葉です。稽古場で息を切らせて稽古するだけでは、
あまり訓練にならないと考えているようです。外
に出て、実戦で試合相手との呼吸などを計ること
が必要だといっています。

(続く)